

令和2年1月20日  
建設緑政局河川課

## 令和元年台風19号による河川関係の浸水被害に関する住民説明会

- 1 日 時 令和元年12月9日(月) 19:00~20:30
- 2 場 所 下布田小学校体育館(多摩区布田23-1)
- 3 対象地域 菅1丁目、菅稲田堤2丁目、3丁目、布田周辺地域
- 4 出席者  
国土交通省京浜河川事務所管理課長 下條 康之  
神奈川県横浜治水事務所川崎治水センター所長 和田 潤一  
川崎市建設緑政局長 奥澤 豊  
川崎市建設緑政局道路河川整備部長 磯田 博和  
川崎市建設緑政局道路河川整備部河川課長 安部 正和  
川崎市多摩区役所道路公園センター所長 青木 誠  
川崎市多摩区役所道路公園センター管理課長 田中 仁志  
川崎市多摩区役所道路公園センター整備課長 内田 彰浩

### 5 説明会議事

#### ① 局長あいさつ

局長：

只今、司会の方から紹介がございました川崎市建設緑政局長をしております奥澤でございます。宜しくお願ひ致します。本日は大変お寒い中、また、月曜日の19時ということで大変お疲れの中、お運びいただきましてありがとうございます。まずもって、今日はお集りの方々におかれましては、先日の台風で浸水被害に遭われたということでございますので、改めて心よりお見舞いを申しあげる次第でございます。川崎市といたしましても、大変今回の浸水被害については、重大な案件というふうを受け止めてございます。一日も早く、この浸水被害がどうして発生したのか、その原因につきまして、今日出席をして頂いております、多摩川の管理者である国交省さんと、三沢川管理者である神奈川県さんと共に連携をしながら少しでも早く、もうすでにその分析を始めてございますけれども、その原因究明をしました結果、同じような台風が発生した際にも被害が出来るだけ少なくなるように最小限に留められるように対策を講じてまいりたいというふうを考えているところでございます。後ほど詳しく担当の方からご説明を申し上げますけれども、まずはその原因究明と来年の出水期と言われる、いわゆる大雨が降る台風シーズンまでに行える短期的な対策、その後、中長期の対策、抜本的対策になると思っておりますけれども、そういったことに対しまして、しっかりと検討を進めていくふうを考えているところでございます。今日は大変限られた時間

でございますけれども、皆様方から忌憚のないご意見を頂戴しながら、それに対してしっかりとお答えしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

## ② 資料説明

河川課長：

河川課長安部でございます。それではこれから説明をさせていただきたいと思っておりますので、着席をさせていただきたいと思っております。

それでは、お席にお配りしたA3の資料を使ってご説明をさせていただきたいと思っております。A3のホチキス止めの資料が2枚ございます。1枚目が表裏、2枚目がですね表面となっております。まず1枚目の「河川等に関連する浸水被害の状況」というページをご覧ください。ここにはですね、令和元年10月12日に大型で強い勢力を保ったまま上陸した台風第19号による記録的な大雨となりました。この大雨による多摩川の計画高水位を超える状況のなか、資料にお示ししている市内における三か所につきまして河川に係る浸水被害が発生してございます。まず①川崎区港町周辺、河港水門というところがございます。ここで約4.5ヘクタールに及ぶ浸水被害が発生してございます。続きまして②平瀬川（多摩川との合流部）、平瀬川と多摩川の合流部という写真がございます。こちらにおきましても平瀬川と多摩川の合流部約2.7ヘクタールの浸水被害が発生しているところでございます。この2か所につきましては、今日三沢川周辺の説明を開催させていただいておりますが、この2か所につきましても今月中に住民の皆様方に説明会を行っていく予定となっております。

また、今回御説明させていただきます③の三沢川周辺につきましては、約9.8ヘクタールに及ぶ浸水の被害が発生しているところでございます。当日の状況や今後の取り組み等につきましては、引き続きご説明させていただきますが、先ほど局長からもお話しがあったとおり、浸水原因と対策等の検証を行いながら、同様な事態に遭遇しても被害が最小限となるような検討を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

整備課長：

引き続きまして、私からは、資料の右下に示しております三沢川の2そして三沢川3につきまして説明させていただきます。まずは裏面を見ていただければと思います。三沢川の2「三沢川に関する浸水被害状況」等をご覧ください。台風第19号におきましては、10月12日19時ごろに大型で強い勢力を保ったまま伊豆半島に上陸し、翌13日未明に東北地方の東海上を抜けていきました。長時間にわたり強い雨が降り続け、関東・東海・中部・東北地方と広範囲にわたり記録的な大雨となりました。資料の右上に左から「多摩区菅消防署」、右に「東京都檜原村」にある雨量観測所における10月12日の雨量の推移を示しております。菅消防署におきましては、12日14時には1時間最大に35ミリメートルの激しい雨となり、総雨量は310ミリメートルを記録しました。また、多摩川の流域で

川崎市より上流に位置します東京都檜原村におきましては、1時間に最大56ミリメートルの非常に激しい雨となり総雨量は多摩川流域最大となる654ミリメートルの記録的な大雨を観測しました。

次に、「2 浸水原因と浸水範囲」についてでございます。浸水原因につきましては、今後、検証を進めてまいります。流域内に降り続いた大雨により、多摩川において堤防の高さを決めるための指標となります計画高水位を超える状況の中、三沢川につきましても水位が上昇し、三沢川に流入する大丸用水などの水路や道路の雨水が流入しづらくなり、水が溢れたものと考えております。浸水範囲につきましては、資料の左下の地図をご覧ください。オレンジ色で着色している箇所は、11月8日の時点で把握しております想定浸水範囲となります。水色の線は冠水が確認された道路であり、青色の線は、大丸用水と水量の多い水路となっております。なお、浸水想定範囲は、大変申し訳ありませんが、まだ全てを把握できていませんので、御理解いただければと思います。

次に、資料中央の赤枠で囲っている写真につきましては、上から順に「三沢川水門」、「上布田一之橋付近の三沢川」、「大丸用水付近の三沢川」、そして、「三沢川に流入する大丸用水」でございます。その位置につきましては、それぞれ地図上の赤丸で示した箇所となっております。

次に、資料右下の「3 現場状況」についてでございます。左下の地図に赤文字の①、②と赤い矢印で写真の番号と撮影地位、撮影方向を示しておりますが、10月12日の「三沢川管理用通路」と「菅住宅付近」の浸水状況写真でございます。台風による甚大な被害の様子を撮影したものでございます。

次に、資料を1枚またおめくりいただきまして、**三沢川の3**「三沢川（JR南部線三沢川橋りょう周辺）」をご覧ください。資料の上段、「4 多摩川の水位の避難情報、三沢川水門の開閉記録」についてでございます。左側のグラフは、多摩川の三沢川水門から約1.6キロメートル上流に設置されています石原水位計の水位記録になりまして、雨が降り始めから12日にかけての時刻の経過に伴う水位上昇を示しております。グラフの横に示した多摩川水位に関する情報といたしまして、14時には「氾濫注意水位」と「避難判断水位」であります4.3メートルを超え、15時50分には「氾濫危険水位」の4.9メートル、23時50分には計画高水位である5.94メートルを上回る最高水位6.33メートルを記録し、過去最大の水位を観測しました。このグラフに照らし、右側は避難情報と三沢川水門ゲートの開閉記録でございます。三沢川水門のゲートは国土交通省京浜河川事務所による操作となりますが、先ほど触れました、多摩川の水位の上昇と多摩川に流入する三沢川の水位を確認しながら16時3分に三沢川水門のゲートを6分間全閉し、16時43分にはゲートを全開にしております。また、18時30分以降につきましては、多摩川と三沢川の水位を確認しながら、全閉しない範囲で、細やかなゲート操作を行ったものと伺っております。

次に、資料中央、「5 活動状況」について、これは道路公園センターの活動でございます。10月12日のみ三沢川関係といたしましては10時と15時に道路パトロールを行

い、宅地や道路の浸水が始まった夕方以降、三沢川周辺の住民避難に関する広報と三沢川の洪水を多摩川に排水するため、国土交通省京浜河川事務所にポンプ車の要請を行い、その排水作業に係る警察協議や監視活動の現地対応を行ってまいりました。10月13日以降につきましては、被害状況を把握するため、道路パトロールを実施し、三沢川沿いのJR南武線アンダーパスなどの道路清掃や被災されました町会へ土のう袋を配布いたしました、また、宅地から排出された土砂の回収や道路の柵・側溝清掃につきましては、現在も作業を継続しております。なお、多摩区管内で三沢川関係以外の主な活動につきましては、宅地の土砂が道路を塞いでしまいました土砂崩れの対応や二ヶ領用水への取水に必要な上河原堰堤の水門操作を行ってまいりました。

最後に、資料の下段「6 今後の取組」についてでございます。今後は、速やかに浸水原因の検証を行い、浸水対策の検討を進めてまいりたいと考えております。この検証を踏まえた対策につきましては、国土交通省や神奈川県などの関係機関と連携を図りながら、早期に被害の軽減を図る「短期対策」と、より効果がある「中、長期対策」に分けて方策を検討してまいりたいと考えております。これらの取り組みを右側のスケジュールで示しております。「短期対策」につきましては、次の出水期である令和2年6月を見据え、検討を進めながら方策を実施し、中長期対策につきましては、先に行う「浸水原因の検証」と「中・長期対策の検討結果」を踏まえ、最善の方策を実施して参りたいと考えております。説明につきましては以上でございます。

## ② 質疑応答

(司会) それでは、引き続いて質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言を頂きたいと考えておりますのでご協力をお願い致します。また、ご発言にあたり、差し支えないようでしたら、お住まいの町名を教えてください。それでは質問のある方は挙手をお願い致します。

(質問者1) 稲田堤3丁目の●●と申します。資料のですね、2ページ目なんですけども、浸水原因と浸水範囲ってあるんですが、ここに書かれてるのは、三沢川に流入する用水路等の水が流入しづらくなったためって書いてあるんですけども、私の見た感じでは、三沢川そのものがですね、菅住宅の横のところ、溢れておりました。だから三沢川そのものが、冠水して溢れたのが最大の原因だと私は思っているんですけども、なぜそれがここには書かれていないのでしょうか。

(川崎治水センター所長) 神奈川県川崎治水センターでございます。三沢川が氾濫したのではないかというお話を頂いたのでございますが、私どもでですね、台風19号が通過した後確認を致しましたところ、まず三沢川の下流部、多摩川に合流する付近ではですね、アクリル板のほぼ真ん中付近に洪水の痕跡がありました。またその上流をですねJR南武線の

橋りょう付近、こちらについてはアクリル板の先のフェンスには洪水の痕跡がありませんでした。

(質問者 1) ありました。雨が降る前に、泥水が流れてきて堤防というか壁にですね泥水、泥のついた～～

(住民) 聞こえません。

(質問者 1) 写真を撮ればよかったんですが、ちょっと写真撮り忘れちゃったんですけど、明らかに、アクリル板の切れたところで三沢川が溢れてました。

(川崎治水センター所長) その点につきましてはですね、私どもとしては三沢川が氾濫していないという風に思っておりますが、また、その点はですね、今後の検証ということにさせていただきますと思います。

(質問者 1) 会場の皆さんで、三沢川が溢れたっていうのを見た人っていませんか。

(住民) マイクの調子が悪いから何を言ってるかわかりません。

(質問者 1) 皆さんの中で、三沢川が溢れたっていうのを見たって人はいませんか。私自身は見てはいないんですけど、後日ですね、あそこ通りかかったときに、明らかに泥がですね壁に付着してて、あっ、ここ溢れたんだなって思ったんですけど。

(質問者 2) 稲田堤 3 丁目の●●と申します。ここで、同じところなんですけども、2 番の浸水原因と浸水範囲というところで、私の方は、目撃してるのは、この水路というところが、上布田一之橋付近の、ちょうど真ん中に写真があるんですけども、水路から水が流れ出てるところがあるんですが、ここの水路から、三沢川の水が逆流して、それで私どもの地域を、浸水させたという風に認識しております。その写真を、川崎市の方には提出しました。それで前のご質問の方と同じように疑問に思ってます。課長の安部さんっていう方に写真は渡してあります。で、これから流入しづらくなつてではなくて、三沢川の水が水路に流入した、それが原因だと、逆流したというのが原因だと認識しております。以上です。

(多摩 DKC 整備課長) 今、お話のありました、上布田一之橋付近のフラップゲートという、水路からですね、水が逆流したのが原因ではないかと、というご質問、ご意見でございますけれども、そちらにつきましてはですね、事実としてですね、三沢川の水門、先ほど少し触れさせてもらいましたが、三沢川の樋門、水門については、全閉にはなっていない。で、三沢

川の水もいっぱいになっている。多摩川も当然いっぱいになっているんですけども、そんな中でですね、この水路も、当然ながら広いですね、2キロ以上の延長を持っていて、そこからですね、水がたくさん集まってきていると、というような状況のなかで、なかなか、川崎市の認識としましては、当然水門がすべて開いていたわけですから、何とかですね、ケンカしながらでも流れていたと、いうことを想定しております。ただ事実関係につきましてはですね、実際にそこに水位計があったりとかですね、例えばカメラがあったりとか、そういった裏付けられるものを持ち合わせていないので、こちらにつきましてもですね、今後の検証をしっかりと進めてですね、原因解明に努めていきたいというふうに考えております。

(司会) よろしいでしょうか。では、他にご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。では、あちらの黒いコートをお召しの男性の方をお願いします。

(質問者 3) 菅稲田堤3丁目に住んでる者ですけども、今ご説明で、三沢川の水門のゲートが全閉してないってあるんですけども、資料上三沢川3のページだと、16時3分から6分間全閉してますって書いてありますよね、今全然話いただいたものが資料の説明が食い違ってる感じがしました。あと、この全閉全開、あとその18時以降全閉はせずともそういった操作をしたというところのその根本原因っていうか、そうせざるを得なかった説明っていうのがしっかり聞きたいと思っているんですけども、当然全閉ですとか、全閉にしなくても制限かければそれだけ水が流入しにくくなるのは、当然だと考えられるんですけどもその辺しっかり説明頂きたいと思うんですけども。

(多摩 DKC 整備課長) 今、質問のございました三沢川の水門を全閉に実際はしていると、いうところをまず、ひとつですけれども、こちらはですね、資料のとおりですね、約6分間閉め、国土交通省さんの方で閉めさせていただいております。この状況というのはですね、やはり、多摩川の水位と三沢川の水位、こちらがですね、三沢川が、多摩川の水位が三沢川を上回ってしまったためにですね、この約6分間、閉めさせていただいてるっていうところで、当然ながら閉めた時点ではですね、三沢川の水の流れが滞ってしまうということでもございます。そんな中でですね、実際に、この三沢川の川の中がですね、…じゃちょっと京浜河川事務所さんに。

(京浜河川事務所管理課長) 京浜河川事務所の下條と申します。三沢川水門というのがですね、三沢川へ多摩川の洪水が逆流することを防ぐための施設でございまして、先ほどご質問のあった6分間というのがですね、三沢川の水位の方が多摩川の水位よりも低い場合にはですね、三沢川へ逆流してしまう可能性があるので閉めるという行為になりました。時間というと、12日土曜日の15時34分に、三沢川水門の多摩川側と三沢川側に、水位計が2つ付いていて、その水位計をもって逆流順流、逆流しているかしていないかということ

判断させていただいております。その時にですね、水位計自体は時々刻々と変化しますので、それを見てですね、16時3分にですね、全閉をさせていただいて、その後あとですね、多摩川の水位が下がったりとか、三沢川の水位が上がったりだとか、そういうことがあってですね、逆流が一瞬あったということで、また逆流がなくなったという判断をしまして、ゲートを上げさせていただいております。それが16時43分に全開しているというところでございます。このときにはもう既に三沢川の方の水位が高い状態でしたので、そのまま水位を見ながら、現場を見ながらですね、操作を色々こう検討していたところでございます。18時30分にですね、また逆流の兆候が見られまして、その時にですね、ゲートを操作したんですけども、その間ゲートを閉めるまでの間に、30分かかります。30分かかる間に、やはり逆流はなくなってきたと、というようなことがありましたので、途中でゲートを止めてます。要は、全部閉めていない状態になっております。そういったことでですね、水位をですね、18時30分以降ですね、見ながらですね、ゲートを操作するかしないかという判断を、要は逆流した場合には閉めざるを得ない、もともとの目的がですね、多摩川の洪水が三沢川に入る、それを防ぐための施設ですので、そういったことを、念頭に置きながら、結果的にはですね、この洪水の最終的に13日のですね、お昼の時間帯にはゲートをまた完全に開けさせていただいたというところでございます。

**(質問者3)**今の説明ですと、ゲートを閉めるのは逆流を防ぐためですというお話だったんですけども、実際私もこの近くに住んで感じるのは、このゲートを閉めてる全開の6分間以降に水が急激に浸水というか、してるんですね、で、逆流するために水門閉めたっていうのは理解できなくはないんですけども、結果それで結局流れるはずの水も滞るわけじゃないですか、そこで水位が上がることによって、それに用水路とかまた水が流れ込みにくくなるって当然だと思うんですけども、なんか原因究明にすごい時間かかっているようなんですけども、そんなに難しい話ではないのかなって感じています。

**(京浜河川事務所管理課長)**三沢川の水位も上がっていて、多摩川の水位も上がっていたというのが今回の事象になりますので、今回三沢川の水位が多摩川の水位より高い状態で一定量流れていたというところで、三沢川の水門を全閉という形で閉めずに、ちょっと経過観察していたというのが、こちらの結論になるんですけども。

**(質問者3)**ちょっとわからないんですけども、水門閉めることによって、三沢川の水位が上がるとはですね、そこはどうですか。

**(京浜河川事務所管理課長)**三沢川の水位はもちろん雨が降っておりますので、上がると思います。多摩川についても、雨が降っておりますので上がると思います。ただ、その時に三沢川の水位が多摩川の水位より高い状態であったということだったので、逆流はしていない

いという判断だということを考えております。

**(質問者 3)** この質問の意味は、水門を閉めることによって水位が上がるのではないですか、という。

**(京浜河川事務所管理課長)** 水門は全部閉めてなければ、水圧の関係、難しい言葉を使って申し訳ないんですけども、要は、水が全然通らないわけではなくてですね、

**(質問者 3)** いや、全閉 6 分間のところを聞いてます。

**(京浜河川事務所管理課長)** 全閉 6 分間の時は、確かに三沢川の水位を止めるような形になってしまっていたとは思いますが。

**(質問者 3)** 全閉 6 分間のところ付近で、急激に水が溢れてるっていう認識を持っているんですけども

**(京浜河川事務所管理課長)** ちょっと、三沢川の水位の上昇についてはですね、水門の操作については確認させていただいたんですが、その辺によって浸水が助長されたという風には私の方ではちょっと考えてないです、今後のですね、もちろん川崎市さんと神奈川県さんとその検証によって、検証というか分析によってですね、明らかになるべきところかなと考えております。

**(司会)** よろしいでしょうか。では次にいきたいと思いますので、では、あちらの紫色のコートの女性の方お願いいたします。

**(質問者 4)** 3 丁目の●●と申します。16 時 5 分頃三沢川の全閉した時、水門をね、その時、水は溢れてきたんです。どこから溢れてきたかという、大丸用水からです。ここに、菅住宅の、あの上のところからの写真が載っています。多分それが、16 時 5 分から 10 分ぐらいの、私も同じ写真を撮っております。閉めた時間に大丸用水から逆流してます。なぜ大丸用水から逆流するかという、大丸用水の水の出口は、三沢川の底から 3 メートルぐらいのところ。三沢川の深さは、道路面まで 5 メートルぐらいです。それはそういう印が川になってます。そして道路の上に 1 メートルとか 1 メートル半ぐらいの護岸のコンクリートやパネルが貼ってありますが、その後、その 4 時の時点で、その後 4 時の時点から夕方時間が経過して 7 時頃に、三沢川の水位は、その道路面よりも高くなってますね。住宅の上から見ててそれは見えました。そうすると、大丸用水は当然三沢川の護岸の真ん中あたりに流れ込んでいるわけですから、そこから逆流云々もあると思いますが、溢れるんですよ。ど

うしたって三沢川の真ん中あたりに流れ込んで、壁面真ん中あたりに流れ込んでる水はだれが考えたって水の高さは同じになるから、溢れますよね。で、私がここで伺いたいの、大丸用水の設置の構造が、これは、こういう洪水を想定してないんじゃないか、してないでやってるんじゃないか、当然水位が上がれば、ここから、陸橋のところからね、溢れてくるんです。これは、三沢川と大丸用水の関係の欠陥じゃないかと思うんですけど。それからもう一つ、菅のそこの三沢川沿いの、壁面、道路とコンクリの壁のところには5メートルおきぐらいに、15センチぐらいの塩ビで穴があいてます。水が三沢川に流れるようになっているんですね。そして、川の内側に蓋のあるところもあるんですが、いくつか筒抜けになっているんです。わずか15センチぐらいの穴でも三沢川の水位が道路面よりも上がれば、それは当然常時水が流れてきます。そういう結果で菅の3丁目、低いところは1メートル50センチ以上、そういう水が溜まったのではないかと思うんですね。ですから、この三沢川が、の構造に私はね、欠陥があるんじゃないかと思うんですけども。その辺はどういう風に、道路管理センターなり、河川事務所の方はお考えになっているか、聞かせてください。そして、今後検証するってことですが、もう検証、そこに行ってみれば、即座にわかるものだから、ここを何とかしないと、その道路よりも、高く水が溜まったときは、すぐまた溢れるんです。それはどういう風にお考えでしょうか。

(拍手)

**(多摩 DKC 整備課長)**ただいまご質問に与りました、まず一点目、この大丸水門の水門自体の構造ですね、これがこのような浸水をですね、想定していないのではないかと、っていう構造的なお話がまず一つあります。こちらについてはですね、昭和46年にですね、神奈川県さんの方で、設置された水門となっております。ただ自分もですね、現場を見たところ、実際に水門が閉じるとですね、三沢川の護岸と同じような構造になるわけなんですね。ですから、そこに護岸の一部のような形になってきますので、構造的なものについてはですね、特に問題はないと考えておりますけれども、詳細にはですね、何せ古い施設であることから、また神奈川県さんとですね、協力しながらですね、検討していきたいというふうに思っております。二点目、パラペットは、という言い方は難しいですね、道路の脇にですね、コンクリートの壁がありまして、そこの下の方にですね、穴が空いてるんですね。で、こちらというのは、やはり、隣に河川管理用通路っていう道路がありますけれども、そこのですね、水の捌け口としてあいた穴が設置されております。その護岸の中から見ますと、そこに小っちゃい蓋がしてあるんですね、それは皆さんご存じかと思っておりますけれども、これがですね、いわゆる、水かさが増してきたときに川の水がですね、溢れないようなかたちで設置されているものでございます。ただですね、自分の方もですね現場を確認したところ、一部ですね、蓋がないようなところがあったんですね。ですからそれについてもですね、神奈川県さんと一緒にですね、それがどれぐらい悪さをしたのかということも含めてですね、今後の課題

としてですね、取り組んでいきたいというふうに思っております。

**(質問者 4)** そのパラペットについては、早急に対処するということですね。そうですね。

**(多摩 DKC 整備課長)** はい。

**(質問者 4)** それと、大丸用水も確かに水門があるんですけども、水門を閉めるとか閉めた実績とかね、大丸用水の水門を閉めろという指示とか、そういうのは出してないのですか。それからあの水門で、あの水門を閉めることによって、三沢川の護岸の高さと同じだけになるんでしょうか。

**(多摩 DKC 整備課長)** 二点ございましたが、大丸用水の水門はですね、実はこれまで、動かしたことはございません。というのもですね、こちらのいわゆる、管理実態というものがですね、ございませんので、こちらについてもですね、併せて神奈川県さんの方とですね、どのような、例えば操作方法がいいのか、ということも含めてですね、検証していきたいというふうに思っております。あともう一点、先ほどの水門の高さの話ですね。こちらについてはですね、自分も道の上からですね、目検討、道路の反対側に渡ったりしながら、目検討でちょっと見ているだけです。具体にはですね、こちらの、先ほどの構造の確認と含めまして、実際にですね、それだけの、例えば高さ、幅があるのか、というのもですね、現地にですね、測量して、しっかり把握していきたいというふうに考えております。

**(質問者 4)** すいません、じゃああと一点だけ。あの一之橋のところに、水路、先ほどの方が質問したね、水路が落ち込んでいるんですけども蓋が常時鎖であいているんですね。それは、ここの水位が上がれば当然逆流とかね、いくと思うんですけども、これについての管理は、どういうふうにお考えでしょうか。

**(多摩 DKC 整備課長)** 先ほどの水門と重複してしまう部分もありますけれども、この蓋ですね、こちらについてもですね、実際に管理している実態がございません。ですから、蓋が常に開いていた、という部分もですね、ちょっとうちの方ではですね、把握しきれていなかった、というところではございます。ただしですね、蓋が開いてたことが原因だったのかどうかですね、これからですね、うちの方も検証していかなくちゃいけませんので、その中でですね、明らかにしていきたいというふうに考えております。

**(司会)** よろしいでしょうか。では、次にご質問ある方はお願いいたします。では、後ろの方の席の、灰色っぽいジャケットをお召の方お願いいたします。

(質問者 5) 菅稲田堤 3 丁目に住む●●と申します。先ほどの方、おっしゃられてたように、インターネット上でも大丸用水、あの箇所からの流入が疑わしいんじゃないか、いう情報が多く出回っていて、やはり私がすごい近くに住んでいますけど、そのように思います。その件についてはその検証と、あと今後の対策を粛々と進めていただければいいと思うんですけど、要は、このあたりオペレーションがこれまで検討されていなかったから想定外の水量が流入した際にこのような結果になるということが、想定ができなかったわけだと思うんですけど、今後ですね、ここのオペレーションとあと今回ですね、一番被害が大きかった際に、困ったことが、このオペレーションと水門もですけど、水門の開閉等もですね、閉めるといったところを事前にですね、察知ができなくて、察知できない状態で、水が溢れて、その後に色々右往左往して一体どういう状況なんだと、いったことですね、水門を閉める、あとはその用水の蓋を閉める、そういったものですね、防災の警報的な、そういったその何か知らせる術という、それを事前に知らせる術っていうのが、あればもう少し住民とか手だてができたんじゃないかと思うんですけど、その辺りいかがでしょうか。

(河川課長) 水門操作に伴う、先ほどからお話に出ているとおり、三沢川の水が溢れる可能性もあると、水路の水が影響出るとかその辺は、そういったものも課題だと思っております、例えば水門閉鎖に伴う水防活動、地元の方々に区の危機管理担当を通しながら、例えば柔軟な避難を促すような連絡体制を、国と神奈川県と川崎市で構築していく、で、そういったものも沿線の方々の地元の方に周知をしていく、そういうような繋がりをもった活動をしていきたいと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。

(質問者 5) すいませんもう一点ですけど、今回水門を閉じたことによって、三沢川が溢れると、いったことはどの程度想定されていたんでしょうか、まったく考えがなかったのか、ある程度三沢川が氾濫するといったことが想定されてて、かつ水門を閉められたのかどちらでしょうか。

(河川課長) 水門の操作によって水が溢れる、というような内水氾濫をおこす可能性があるということは国土交通省からその水門の操作に基づいた時に、川崎市の方に連絡がございまして、で、それに伴うポンプ車の要請をしたりとか、ということで今回活動させていただきました。

(質問者 5) ありがとうございます。

(司会) では次の方にいきたいと思います。前列の黒いジャンパーを着た赤い線がはいった方、メガネの、よろしくをお願いします。

(質問者 6) 菅稲田堤の者です。●●です。今多摩川と三沢川のことが水門を含めて中心になって話してますけども、細かいその、今でもそうかもしれませんが畑などに使っている用水ですかね、大丸用水も含めて、その辺は、当然今後の大雨、台風を考えるとその対策はどうしてもしなきゃならないと、いうふうに思うんですね。それでどう見ても大丸用水の方が低いんですから、壁が、護岸が、だからこのところは支保していただかないと、シートパイルとかですね、なんかそれをしないとやっぱり低いままではとてもどうしようもないと、それから大丸用水はとても今大きな問題なってますけども、他の灌漑用水、音を立ててぶかぶかぶかぶか水が上がってきたんですよ、それで被害を大きな被害を受けたとかも結構あるんです。だからその用水をどうするのか、で、大丸用水は場所によっては灌漑、あの蓋してですね歩道になってるところもありますけども、やっぱり今どう見ても、水門だけでは解決できない。構造上もう大丸用水なんか低いわけですから、そこんところしっかりどの辺まで見ていただいているかわかりませんが、シートパイルとかなんか色々打ってますね、そういうことをして、かさ上げしていかないとどうしようもない状態。水門の調査だけで、それで私たちは安心できるものじゃありませんので、以上です。

(多摩 DKC 整備課長) 今頂きましたご意見をですね、しっかり踏まえてですね、対策に位置付けていけたら、というふうに。

(質問者 6) 用水路のことは頭にあったんですか。

(多摩 DKC 整備課長) 当然ながらですね、頭にはございます。ただ、用水路、ご存じかと思いますが、それこそ稲城のほうからずっと来てるんですね、そんなこともありまして、幅広に、今の浸水した区域だけの話じゃなくてですね、全体的な話にも繋がってくるかと思えます。そんな中でですね、中長期対策、少し先の長い話になって申し訳ないんですが、大丸用水自体のですね、なんていうのかな、例えば今の部分的な対策だけではなくてですね、全体の例えば経路を変えてあげるだとか、そういった水が来なくなるような、少なくなるような仕組みも含めてですね、しっかり検討していきたいというふうに思っております。

(質問者 6) 大丸用水の水門は、稲城市ですよね、その辺のこと稲城市とも当然連絡とらないとどうしようもないと思うんですけど。多摩区だけじゃダメ。

(多摩 DKC 整備課長) そうですね、ご指摘のとおりですね、稲城市、またあちらについてはですね、大丸改良区さんですか、というところもですね、一緒になってですね、川崎市と一緒に検討進めていきたいというふうに思っております。

(質問者 6) 多摩川浅くなってますけども、それは確認してますか。多摩川の底浅くなってま

す、確認してますかって聞いているんです。

(京浜河川事務所管理課長)多摩川についてなんですね、やはり上からの土砂が結構流入しているということが見受けられてですね、場所によって掘られてる場所もちろんありますし、大勢見るとですね、やはり上から土砂が落ちてきてるところが多くてですね、河床全体は調査をしている最中ですので具体的には言えませんが、ちょっと溜まってきているのかというふうな印象を受けているところなんですけども、具体的に下がっているというところは、どこの話を。

(質問者 6)それは国土交通省さんが責任を持って、川を確認してやることじゃないんですか。

(京浜河川事務所管理課長)もちろんですね、今後しっかり調査をして、必要な対策を講じていくとは思っております。

(司会)よろしいでしょうか。では次の方、こちらのマスクの女性の方お願い致します。

(質問者 7)私は布田の三沢川の水門の近くに住んでる者です。三沢川から川は越水してないと、川崎市さんの方で言ってますが、うち床下浸水に遭ってますし、車もバイクも全損しました。私たちはもう両親が高齢なので2時過ぎには避難しました。で、隣のお宅の方が在宅してたので、聞いたらやっぱりアクリル板から水は越えてるし、あと、アクリル板を止めてる支柱のところからザアッと水が出てきてたって。ポンプ車で水位を調整してたって言ってもやっぱり床下浸水になってますし、隣のうちは床上になってますし、越水してるからそういう状況の被害を受けてます。で、なぜ今更なのか、あそこの地域はハザードマップ赤ですよ、これまでの対策っていうのはしてきたのでしょうか。で、平成になってからやっぱり、菅稲田堤3丁目、1回やっぱり水門閉めた時に床下浸水になってます。その時はそんなに大きくはなかったんですけども、それが起きてる時できえも、まあ今回今までもずっと台風が来ましたが、対策っていうのは立てられたと思います。ハザードマップ赤になってるんだったらば、それなりの対策っていうのが今までも出来たと思うんですけど、なぜ今回の台風19号に被災、被害でこういうふうな説明会だとかを対策を練っていきますっていう状態なのか、その辺すごく疑問です。今までだってできたと思います。その辺ちょっとお聞かせください。

(川崎治水センター所長)神奈川県でございます。三沢川につきましてはですね、先ほどの私の方からお話したんですが、アクリル板の洪水痕跡を見るとですね、アクリル板の丁度中間くらいだったものですから、私どもとしてはですね越水はしてないっていうふうに思っておりますが、今後ですね、これは川崎市さんとも含めて、こちらも含めて原因について検証

しながらですね、その辺はですね、確認をしていきたいと思っております。

**(質問者 7)**それっていうのは、被害が起きてから、台風が過ぎ去ってからの確認ですよ。その台風のさなか、雨がすごいときその水門が閉められたとき、その川の水はどこに行くのか、どういうふうな対策を取っているのか、っていうのはしてないですよ。やっぱり、後から見学、後から見て、後から確認、この水の位置が、線がついてるからここまでだっていう確認だけで、そういう判断してほしくないです。私たちそこに生活してるんです。で、川から、三沢川から川の水が超えてきた、で、アクリル板の継ぎ目、鉄の柱と柱の間にアクリル板を挟んでるんですけど、その脇から出てくるっていう現象も見えてないですよ。そういうの見てやっぱり確認してほしいし、水門閉めたことによって、その水、川の水をどうするかっていうのを対策取ってほしいですし、やっぱりハザードマップで赤でついてますけどもやっぱり、そこも生活してるので。今回よくテレビでマスコミでも命を守る行動をとって下さいっていうのを聞いて、私たちはもう避難してしまったんですけども、その状況見てませんけども、何度も何度も川の前に住みますので、水の怖さっていうのは私たち住人達知ってると思うんですけども、やっぱり、どうにかその溢れた水を対処してくれないと、安心して住めない。そういう対策を取ってほしいなって思ってます。

**(川崎治水センター所長)**アクリル板を設置したことがですね、川の余裕高を稼いでまして、それで、大規模に三沢川が氾濫するってことはかなり防げたと思うんですが、今お話ししたとおりですね、アクリル板を設置してから時間も経っておりまして、目地が劣化してる場所もあるというふうに思っております。ここはしっかりとですね、県の方でもですね、その目地ですとか、継ぎ目については検証して、しっかりと効果できるように対策を取っていきたいと思っております。

**(司会)**よろしいでしょうか。それでは次の方いきたいと思いますので、後方のメガネの男性の方よろしいでしょうか。

**(質問者 8)**稲田堤3丁目の●●と申します。また、来年も再来年も同じような被害があるかもしれないんですけども、具体的にあと半年か1年しかないんですけども、その対策としてはどのようなことが、具体的に考えられるのでしょうか。よろしくお願いします。

**(多摩 DKC 整備課長)**今ご質問にありました、短期対策という部分でございますけれども、こちらについてはですね、例えば一つとしては、先ほどのフラップゲートとか、大丸水門のですね、点検とか補修っていうものをやりつつもですね、ただ、土のうを使ってですね、これがすべての方々に有効なのかはちょっとありますけれども、少しでもですね、例えば土のうを置く場所をですね確保したりだとか、いうことをですね、実行しながら短期対策という

もので、しっかり次の台風シーズン前にはですね、被害が軽減できるような、取組を進めていきたいというふうに考えております。

(司会) よろしいでしょうか。では次の方いきたいと思っておりますので、こちらの白い、白っぽいジャンパーの方よろしく願いいたします。

(質問者 9) 菅 3 丁目の●●と申します。私ですね、今まで細かい大丸の水門だとか色々話が出てたんですけども、この三沢川ですね、最終的に多摩川に入る口っていうんですかね、三沢川の出口っていうんですか、それが直角に水が流れるようになってるんですよ。今の水門は、多摩川と直角に流れたらですね、水の勢いで、三沢川が負けるのは当たり前だと思うんですよ。それもまた、若干まっすぐ行けば少し右側に斜めになるものを、どういう経緯か知りませんが、左に曲げて直角に当ててるんですよ。だから余計多摩川の水位が上がれば三沢川の勢いが、水門閉めようと閉めまいとどんどん上がっていくと思うんですよ。多摩川の水位までは。だから多摩川の水位より下がるってことはありえないと思うんで、直角にやるっていうその施工技術者の考え方、それを一つお聞きしたいのと、それから細かい話ではですね、13 日以降に町会への土のう袋配布っていうんですけど、土のう袋ってのは前に配るんじゃないですか。雨の前。雨の後に土のう袋なんかもらったってしょうがないですよ。ですから、土のう袋は、天気予報で 12 日大雨が来るっていったら、10 日とか 11 日に各町会に配布するんじゃないかと思うんですけども、それだけはちょっと、言葉尻をとらえるようですけども、13 日に土のう袋配布って書いてあったんでお聞きしました。ですから、三沢川の方の流れの直角っていう問題は、これは国土交通省さんの方の管轄だと思うんですけども、その設計指針、どうして直角にあてるのか、それをお聞かせいただきたいと思っております。

(多摩 DKC 整備課長) すいません、ちょっとですね、土のうの話をも自分のほうから先にさせていただきます。土のう袋についてですね、13 日に配布したということなんですけども、これは被災された方々にですね、土砂を入れていただくためにですね、その事後対応としてですね、うちの方から町会の方に届けさせてもらったところです。あと、本来の用途として雨降る前じゃないか、というところなんですけども、そちらにつきましてはですね、大変恐縮ではあるんですけども、道路公園センターの方にですね、土のうはいつも完備してますので、申し訳ないですが、事前に連絡を頂ければ、所要数量ですね、お配りしておりますので、そちらのほうですね、是非よろしく願いいたします。

(京浜河川事務所管理課長) 三沢川の出口のお話がありましたが、多摩川の本川の堤防がまず先にきておりまして、その後に三沢川の水門が貫入してるようなかたちになってます。技術的にどうかと言われるとですね、なかなか解析をしづらいというかですね、これをちよっ

と斜めにしているのと、先ほどいった曲げて堤防と平行なかたちで曲げていれるのと、どう違うんだというのはですね、ちょっと分析しないとですね、わからないんですが、ただですね一つ言えるのは、多摩川の堤防の方が先に入っておりまして、そこを開削して水門を設置するという工事がなされている関係があると思います。技術的にというかですね、多摩川の管理上、水門も多摩川本川の一部でございますので、そういった観点で今の位置というかですね、水門の場所と形は決められているというふうに考えております。

**(質問者 9)** ちょっと待ってください。わざわざ 90 度に曲げて入ったっていうのはどういう意味なんですか。

**(京浜河川事務所管理課長)** 多摩川の堤防がありまして、そこに三沢川が斜めに入ってきているので、その時にですね、合流するときには、基本直角で、直角というかですね平行に出すように、それはこの三沢川の水門だけではなくてですね、他の樋管とか水門も同じような形で合流しておりますので、それについてはどうしても河川管理上、堤防という扱いにもなりますので、そういった形になっているというところでございます。

**(建設緑政局長)** すいません、先ほどの土のうの話はですね、基本的なところは先ほど整備課長が申し上げたように、道路公園センターで用意しておりますので、余裕のある方は取りに来ていただくということなんですけども、そうでない、そういう方ばかりいらっしゃいませので、今後の短期対策の中ではですね、できるだけ住まいの近いところに土のうを事前に配置しておくような、まだその適した土地がどこにあるのかどうかというのはこれからなんですけども、例えば、公園のところとかですね、官地で余分な土地がもしあればですね、そういったところに土のうステーションなんて今呼んでおりますけれども、そういった施設を置いて、できるだけ早く迅速に皆様のお手元にですね、行き渡るような工夫ができないかということを検討していきたいというふうに考えています。以上です。

**(質問者 9)** 三沢川の直角の話なんですけども、それはわざわざ直角に今回の三沢川はやってるんですよ。水門は何も土手と平行でも構わないですよ。川の方だけが斜めになっていれば、水門を開けた時に水は斜めに入っていくのではないかと私は思うんですけど、素人考えなんですけども。その点が直角にわざわざあてるっていう他の水門もそうなるってきつきおっしゃいましたけども、全体を含めて国土交通省は直角でいれるのが正しいという考え方ですか。

**(京浜河川事務所管理課長)** 細かい定義がちょっとわからないですけども、今の堤防と先ほど水門との関係ではどうしても平行の方が安全に多摩川を流せますし、特別、三沢川への影響というのもちょっと水理学上考えにくいというふうには考えておるんですが、その辺も

ですね、必要に応じてですね、位置についても検討して参る必要があるのかと、ただ今ある水門で、特段ですね、大きな影響がないというふうに考えておりますので、当方として特別な構造変更というのは考えられないかと思っております。

**(質問者 9)**いや、そういう考え方は、国土交通省さんのほうではすると思うんですけども、そのまっすぐに入るのと斜めに入るのとでは、水の流れが当然違うと思うんですよ。どう考えても、直角に入ると、斜めに入るでは水の流れって当然変わるでしょ。そういう考え方はお持ちでないというのであればそれはそれで、今後の課題になると思うんですけども、大丸の方の水門はどうかという問題も色々ありますけども、三沢川自身の水位が上がってこなければこんなことはないですよ。あれだけ広い川ですから。多摩川の水位が上がることによって三沢川まで上がってきってしまうと。けども、それが直角で流れていかないから三沢川はどンドンどンドン糞詰まりになって水位が上がるということもあるわけですよ。ですからその点を、考え方の相違かもしれませんが、一つ研究してみたいというふうに考えております。

**(京浜河川事務所管理課長)**わかりました。

**(司会)**ありがとうございました。ではお次の方いきたいと思いますので、ではそちらの前の黒いスーツの方、よろしくお願いいたします。

**(質問者 10)**菅稲田堤 3 丁目、●●です。まず、たくさんありますよ。資料に関してなんですけど、縦割り行政ですよ、大丸用水に関して何の説明もない。で、大丸用水が関連してるのであれば当然稲城市からの取水ですから、多摩川から流れて流入していると思うんですけど、それを止めてるのか、そういう説明も一切ない。あと、稲城市から当然流れてきてますから、稲城市から流入してる水の量の変化等に関しては何の検証もされていない。あとですね、3 ページ目で緊急避難指示が 17 時 50 分発令ってなってるんですけども、稲城市とか調布市もっと早かったですよね。多分 1, 2 時間早かったと思いますね。かなり遅い。あとこの上河原、その下の 5 の活動状況で、上河原堰堤の水門操作、これ二ヶ領用水と三沢川の間のところの水門のことだと思うんですけど、ここを出てる水位変化に関しては石原の水位計なので多摩川原橋の下のところだと思いますけどそこしか出てない。で、あの先ほど二ヶ領用水、三沢川が多摩川に対して直角に入っているのは堰堤があるからだとおっしゃってましたけど、それであれば、その部分をちゃんと把握して説明できるようにしてない。当然力学的に水が流れていく方向に対して、水が下側に流れ込むわけですから、あんま急激に流しちゃったら負圧がかかるからダムや堰が傷むと思うんですよ、その辺だと思うんですけど、その辺何も考えてない。過去の氾濫状況等把握されてますか。この地域過去にも氾濫してるんですけど、あと三沢川がなんであの構造になったか、過去に、今の三沢川って

というのは人為的に作られていますから、何十年か前はあそこに三沢川流れ込んでないんですよ。それはご存じですか。じゃあそれがなんでそうなったかっていうのは把握されていますか。あの地域では過去に氾濫が起きたときにどういうことが起こって、なんでああいう構造になったかっていうのは把握されていますか。私も最近知ったんですけど。多分年配の方で70 半ば以上の方であの辺に住んでらっしゃる方はご存じだと思います。以上、答えられるところだけで構わないので教えてください。

**(多摩 DKC 整備課長)** まず、大丸用水の説明が記載されていないというところですが、こちら、概略ちょっとお話をさせていただきますと、それこそ川崎市でいう二ヶ領用水と同じなんですけども、大丸用水というのは稲城市のですね、大丸というところで多摩川から取水してるんですね。それで、ここまでの大体の距離っていうのは大体、概略ですけども7キロか8キロぐらいがこちらまで辿り着いていると。ただそれにはですね、当然、分岐もしたりだとか、そこに流れ込んでいる水路などがたくさんあってですね、ちょっと細かくはですね、うちの方でも把握しきれていない状況です。あと、大丸用水の入り口の水門を開閉したのかっていうことなんですけど、こちらの方はですね、稲城市に確認しております。前日 11 日にですね、水門の方は入り口を閉めましたと、いうことを伺っております。大丸用水に関してですね、検証が何もされていないというところなんですけども、ちょっとこちらについてはですね、それこそ川崎市内だけで完結する話ではございませんので、今後ですね、稲城市、また大丸の改良区とですね、力を合わせてその辺を解明していけたらというふうに考えております。川崎市発令が遅いじゃないかと、いうお話があったかと思いますが・・・

**(多摩 DKC 管理課長)** ここで出ておりますが避難指示(緊急)というかたちですが、避難勧告についてはですね、もっと早い時間に出させていただいております。避難指示(緊急)につきましては多摩川の水位を最終的に判断基準にいたしまして、川崎市役所の危機管理室というところが判断するんですが、それは先ほども出ました、避難、氾濫危険水位、16 時 30 分ですか、石原で達したのはそうかと思うんですが、そちらになって、しばらくやはり下がらないという状態の中で、この時間に発令するというふうに判断したと危機管理室から聞いてございます。以上です。

**(川崎治水センター所長)** 神奈川県でございます。三沢川のことについてお尋ねいただきましたので。三沢川につきましては、旧三沢川というのはあるのをご存じかと思うんですけども、以前はですね、旧三沢川を流れていて、二ヶ領用水に流れる流路でございました。これをですね、昭和 18 年ですけども、治水対策ということで現在のルートに付け替えを行っております。その後ですね、三沢川の神奈川県下につきましては昭和 45 年から平成 5 年にかけてまして、県が護岸工事、それから河床工事を行いまして、現在のかたちで時間雨量 70 ミ

りに対応した整備が完了しております。水害なのですが、近年では昭和 51 年の 9 月の台風 17 号で約 50 ヘクタール近い農業被害がございます。これ以降は、特に今の護岸ができてからはですね、浸水被害がないということを私の方で把握しております。以上です。

(司会) よろしいでしょうか。では次の方いきたいと思いますので、奥の黒い服をお召しの方、よろしくお願いいたします。

(質問者 11) 3 丁目に住んでる者です。やっぱ私見的には今回ゲート開け閉め、16 時 3 分に水門のゲートを全閉したのが今回の水没の原因だと思ってるんですけども、先ほどの京浜河川事務所の方が言うには、今回のゲートの開け閉めの対応は何ら問題がなかったというような言い方でしたけど、これってまた同じ台風がきたら、またゲートっていうのは全閉するつもりなのか、今浸水原因の検証をしてると言ってますけど、そこにゲートの今回の操作の、ゲート操作の分析っていうのはやるつもりはあるのかどうかというところを・・・

(京浜河川事務所管理課長) 三沢川水門に関しましては、逆流を、多摩川の洪水から三沢川へのその被害を軽減させる施設っていうことですので、逆流した場合には閉める、ただそういったときに今回の洪水、台風 19 号を受けまして、見直すべきところは見直したいと、併せて多摩川本川の方でも三沢川への負荷の軽減みたいなことが、考えていきたいと思ってるところでございます。

(質問者 11) あと、浸水原因の検証を来年の 3 月までとスケジュールではなってますが、これ検証結果が出たら、またこうやって住民説明会とかやるつもりは何かお考えでしょうか。

(河川課長) 当然頂いた意見多数ありますし、これから原因等色々考えていきますので、またこういった場を設けることも含めて皆様方に説明する場っていうのは設けたいと思っております。

(質問者 11) あと最後に、中長期対策と短期対策、同じ質問重複しちゃうかもしれないですけど、抽象的でよくわからなくて、もう少し具体的なものがあればお願いします。

(河川課長) 短期対策と言いますのは、先ほどお話ししたとおり、次の台風に備えて、例えば皆様方で使っていただくその土のうというのを、ステーションみたいな形で使っていただく場を例えば設けるとか、例えば浸水原因とされている、もし場所があれば同じような台風の時に、そこを土のうとかで塞ぐとか、確実にできる対応のことを言っております。また中長期っていうのはやっぱり、時間もかけてお金もかかるというようなところで、先ほどご指摘ありましたとおり、例えば水路の構造を大きく変えた方がいいんじゃないとか、例えば

先ほどご質問あったとおり、水門操作した時に、水が溢れるものを、その排水する設備が必要なんじゃないかとか、そういったものをご指摘いただいておりますので、そういったものを中長期というようなかたちで捉えています。

(司会) よろしいでしょうか。ではそろそろ時間も迫ってまいりましたので、もうおひとつだけお願いできればと思いますので、では、そちらのメガネの後ろの方よろしく願いいたします。

(質問者 12) 布田に住んでる●●と申します。多摩川のですね、水位が上がったということなんですけれども、上河原堰のですね、すぐ下のところのですね、河床のですね、状況ご存じだと思んですけれども、埋立地のようなものがあったりですね、堰の跡の流れの、水流っていいですかね、それがちゃんと確保されてないんじゃないかって思うんですよ。今の状態だったら三沢川に逆流してくるような高さに当然なるんじゃないかなと思ってます。これ調布の方との、多摩川の向こうの方に主に関係するかもしれませんが、河床の構造について、もっともっとしっかり検証して、削るところは削ってですね、川の流れをスムーズにしないと、どうしたって多摩川の水位っていうのは上がるんじゃないかなと、私は上の方から見てですね、感じております。もう一点、アクリル板についてですね、あれは堤防なんですか。アクリル板の真ん中まで水がいつ隙間から水が溢れて、布田の方も危ないなって感じたことは事実なんです。実際に冠水した道路もございまして、どれほどの強度があって、どれほどの耐用年数があるのかとかですね、しっかり検証してもらって考えてもらいたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

(司会) 大変申し訳ございません。時間のほう迫ってまいりましたので、本日はここまでとさせていただきます。また、本日お受けできなかった質疑に関しましては、次第にですね、当課の連絡先等記載してございますので、ご連絡いただければ、ご対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(住民) また説明会をやる予定はあるんですか。

(河川課長) 次また説明するタイミングなんですけれども、とりあえず、次の台風に備えた短期対策っていうところを取り急ぎやってまいります、資料の 三沢川の 3 にあるとおり、次の出水期と言われてるその雨が降る時期までにはですね、対策を取りまとめてご報告できる場を設けさせていただきたいと思っております。以上でございます。

(司会) そういたしましたら、総括的な事項を多摩区役所道路公園センター所長の青木からお話させていただければと思います。

**(多摩 DKC 所長)** 多摩区役所道路公園センター所長の青木でございます。本日は大変お忙しいところ住民説明会にご参加いただきまして、ありがとうございました。冒頭の局長からの話にもありまして、この度、台風第 19 号によりまして多くの方々が、被害に遭われました。この件につきましては、私ども川崎市としましても、大変重く受け止めているところでございます。職員一同、一丸となりまして、その対策に努めてまいりたいと考えております。また、本日、多くの方々から、大変貴重なご意見を頂きました。大丸用水の構造の問題、それから今後の短期的な対策、中長期にはどうするんだ、次の台風までにはどうするんだと、大変貴重なご意見をたくさん頂きました。これらをしっかり私ども受け止めまして、今後の対策検討に活かしてまいりたいと考えております。どうぞ今後ともご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。本日は大変ありがとうございました。

**(司会)** 本日の説明会の内容につきましては、後日市のホームページでお知らせいたしますので、ご覧いただければと思います。また、ホームページご覧いただけない方いらっしゃいましたら、お帰りの際に受付にお申し出いただければと思います。これをもちまして本日説明会を終わらせていただきます。ありがとうございました。